



サルビア

令和元年5月29日 第9号

伊勢崎学校教育構想 2019 重点

「学府制」による 地域と連携・協働した人づくり

伊勢崎市教育委員会では今年度の取組の重点として、「学府制」を推進することになりました。

「学府制」とは、学校と地域が組織的に連携・協働し、未来の伊勢崎を切り拓く人づくりを円滑かつ効果的に行うための、最も身近な地域協力コミュニティのことで、その地域単位は各中学校区としています（と言うことは 旧赤堀町地域となります）。

本校では、建設当時から地域の方とのふれあいを通じた教育をすすめていたため、「学府制」という言葉が加わっても、取組内容を大きく変更することなく、中学校区内で共有した子どもたちに対する思いを大切にしながら推進していけばよいと考えています。学校通信8号で紹介した、学校農園の整備や5年生の「小菊の栽培」、6年生の「サルビアの栽培」等も、まさに地域の方と連携した学府制による取組と考えています。

今回、3年生の理科の授業で、地域の小沼大輔様と出雲右京様にご指導いただいた「ナスの植え付け」の様子が、上毛新聞に掲載されましたので紹介します。

小沼様には、ナスの栽培方法に加え、右下のような、子どもからの質問にも、「下の花を摘めばいいんだよ」と、笑顔で教えていただきました。



ナス畑に事前にマルチを敷いていただきました

一番最初に咲いた花は摘んでしまおうと教えてもらいましたが、見に行ったとき2つ咲いていたらどうすればいいのですか？



令和元年5月14日（火）【上毛新聞】

▽農業生産法人合同会社野菜屋総合サービス（伊勢崎市赤堀鹿島町）代表の小沼大輔さん（41）と副代表の出雲右京さん（23）が講師を務めた。地域と連携して教育に取り組む同市の「学府制」の一端で初めて行った。

時の話題
赤堀東小（霜田美幸校長）は13日、同校で地元の農家を招いた特別授業を行った。児童45人がナスの苗約50本を植え付けた。写真。

▽児童は真剣な表情で長ナスや丸ナスの苗を丁寧に植え、水やりをした。3年の今井弥南璃さんは「簡単にできた。収穫が楽しみ」と笑顔だった。

講師は、伊勢崎市農政部で結成された伊勢崎市「農&食」の戦略会議メンバーで、地域農業の活性化を図るため、農産物のブランド化事業を核に商品開発や販売経路の開拓を進めるとともに食育や地産地消に取り組んでいます。